

# 恋愛結婚が許されないサウジア ラビアの出会いと結婚

辻上 奈美江

## ●恋愛が許されない社会

日本の結婚紹介所の宣伝で堂々と「恋愛結婚」と書かれていることがあるように、現代の日本では、結婚紹介所を通じて出会った男女であっても、両者が恋愛の過程を経ること、あるいは過程を経たと納得することが必要とされる。結婚が愛情によって支えられていることが前提とされる、いわゆる近世代家族の特徴といえる。

他方で、サウジアラビアでは婚姻は契約であると理解されている。男女が結婚前に恋愛することは基本的には許されない。サウジ人に聞くと、デートが許されるようになるのは婚約後、あるいは人によっては一度も女性の顔もみないまま結婚することもあるという。では、サウジ人男女は、どのように「出会い」、そして結婚に至っているのだろうか？

ここであえてカギカッコ付きで「出会い」と表現したのは理由がある。初婚の場合、本人同士が直接出会って結婚に至るケースはほぼ皆無である。サウジアラビアでは小学校から大学まで、ほぼすべての学校で男女別学となっている。二〇〇五年までは女性には男性とは別の専用の職場を設けるよう労働法で定められていた。女子たちは初潮を迎える頃には外出時にヴェールを被って肌の露出を抑えるようになる。幼い頃は表で遊んでいた女の子たちは、この時期を境に外遊びをしなくなる。結婚の可能性のある男性に対して、女性は髪、人によっては顔もみせなくなる。サウジアラビアではいとこ同士の結婚も珍しくないため、いとこ同士であっても顔や髪を隠す。男性もむやみに女性をじろじろみたり、声をかけたりして

はいけないと教えられて育つ。

## ●結婚相手の探し方

では、男女はどうやって未来のパートナーを探すのか。いとこ婚の場合には、幼い頃から親たちが「いいなづけ」の約束を交わしていることもある。だが、そうでなければ、親や親戚は、男性が適齢期になると結婚相手を探し始める。男女が「隔離」された社会なので同性のネットワークが活用される。男性の母親やオバ、そして姉たちはネットワークをフルに活用して結婚相手を探す。身近に適当な人物がいれば、アレンジが試みられる。

## ●結婚式は出会いの場

身近に適当な人物がいなかった場合に重要な出会いの場となるのが、結婚式である。サウジアラビアで

は、結婚式は男女別々に行われる。規模は大きく、一〇〇人以上の客が集まることも珍しくない。女性の結婚式にはじめて参加したときに驚いたことが三つある。ひとつ目は、筆者は新郎とも新郎とも面識がないことである。一つ目は、客が皆、最大限に着飾り、フルメイクに盛り髪、そしてゴージャスな宝石をつけていることである。新婦よりも目立ってはいけないという考えは微塵もみられない。そして最後に、あまりにも皆が飾り立てているので、新婦が誰なのかわからなかったことである。新婦が姿を現すのは結婚式の中盤以降だが、必ずしも新婦とわかるように登場するわけではない。新婦だけが白い衣装を着用するなどという服装上の特徴もない。

## ●おめかしの理由<sup>ゆえ</sup>

ホームステイ先のアミーラは、ある時、同僚の兄の結婚式に招かれた。アミーラはもちろん同僚の兄について、よく知らない。せいぜい同僚から少し聞いたことがある程度だろう。彼女は、一〇代後半の二人の娘と筆者を連れて結婚式に参加した。

サウジアラビアの結婚式は、夜

九時頃に始まる。にもかかわらず、アミーラは午前中から娘たちにシャワーを浴びさせ、簡単な食事をとると、宝石屋でイヤリングの石を交換してもらい、美容院へと直行した。アミーラと娘たちは一時間以上かけて髪の毛のセットをすると、また大急ぎで家に戻った。ドレスに着替え、入念にメイクを済ませると、会場へ向かう時間になった。会場には、結婚式のために入念に準備をして来た女性たちが次々と集まった。

さて、男性のために結婚相手を探している女性たちにとって、結婚式はネットワークを広げる重要な機会である。とはいえ、もし気になる人がいても、その場で行動に出ることはない。後日、知り合いを通じて、部族や家族、信仰心、本人の性格や年齢など、周辺調査を進めるといふ。そのように思い返すと、アミーラ以外にも年頃の娘を同伴していた母親は数多くいた。だれかに紹介されると娘自慢をする母親たちの姿も印象的だった。結婚式に招待されたアミーラが娘と自身に入念な準備をしたのは、娘たちの将来への野心と無関係ではないだろう。

### ●恋愛は婚約のあと

人物が定まり、男性が関心を示すと、その意思を最初に伝える相手は女性の父親である。父親が認め、娘が受け入れれば、婚約へと進む。婚約期間は人によって異なる。多くの場合、婚約してはじめて男性は女性の顔を見ることができ、婚約期間に入れば二人きりで会うことが許されることもある。男女は電話や面会を通じてようやく互いに対する愛情を育むことになる。だが初夜までは処女でいる必要があるため、外泊は許されない。婚約期間は、はじめて両者が互いについて知る期間となるので、婚約解消はしばしばあることだと諒解りょうかいされている。両者が互いを気に入れば、結婚へと進む。

### ●結婚しない／できない人びと

サウジアラビアは結婚に対する社会の圧力が非常に強い社会である。にもかかわらず近年、結婚しない／できない女性の存在が徐々に顕在化している。非婚現象は二種類の女性の間で見られる。第一は教育レベルの高い、経済的に自立した女性たちである。教育を受け、仕事に生き甲斐を感じ、経済的に恵まれた女性たちのなかに

は、結婚しないと決めたわけではないが、理想のパートナーに出会えずに晩婚化が進む傾向がある。もうひとつのグループは、いわゆるネットワーク弱者である。サウジアラビアでは、結婚は周囲の人びとのネットワークによるところが大きい。だが、まもなく三〇〇〇万人に達する総人口のなかに

は、良いネットワークに恵まれない人もいる。人口増加にともなって、経済格差は拡大し、サウジ人の貧困問題も顕在化するようになってきた。コネが重要な社会において、貧困者は多くの場合、コネ弱者である。うまくネットワークを構築できない彼ら・彼女らが結婚することは容易ではない。「結婚難民」ともいふべき現象が、社会的弱者の間で広がりを見せている。

### ●結婚の先にあるもの

ネットワークに恵まれて結婚したとしても、必ずしも長続きするとは限らない。サウジアラビアの離婚の多さを報告したサウジ人研究者モナ・アルムムナジドは、離婚の一因は、赤の他人が突然共同生活をはじめることにあるという(参考文献①)。そのかわりに再婚も多い。

また、性交渉を合法化するため、便宜的に婚姻関係を結ぶケースもみられる。「ミスヤール」は、シア派の「ムトウア」のような婚姻期間を設定しないものの、夜を共に過ごさず、男性が扶養の義務を負わない、また妻に夫の遺産相続権がない新たな婚姻の形態として出現した。ミスヤールは、複婚を望む男性や、経済的に自立した独身女性、離婚女性、寡婦の間で実践されることが多いとされる。先述の結婚しない／できない女性に結婚の機会を提供することもある。

社会経済構造の変化にともなって、人びとのライフスタイルや思考様式も変化している。だが、性秩序だけは変化が遅い。サウジアラビアの婚姻制度は、変化する社会経済構造と不変の性秩序の溝を埋めるかのように、その姿を自在に変化させている。

(つじがみ なみえ／東京大学総合文化研究科特任准教授)

《参考文献》

- ① AlMunajjed, Mona 2010. *Divorce in Gulf Cooperation Council Countries: Risks and Implications*. Booz&co.